

条例第18条の2第2項に規定する自主規制団体からの聴き取り結果

(平成30年11月7日実施)

	図 書 名 等	聴 き 取 り 内 容
1	<p>ジュネットコミックス350 ピアスシリーズ535 看守は2度も3度も×××される。</p> <p>平成30年10月15日発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レイプものではあるが、暴力行為に少し優しさを感じる。性行為の描写はそれほど卑わいには感じられない。しかしレイプそのものは許されるものではない。指定該当 ・全般に性行為のシーンが多く、擬音や体液の多さが卑わいな感じを与えているため、指定やむなし。 ・全編にわたって性交場面が多く、性器は白抜きされているが形状がわかる描写になっている。擬音や体液も含めて卑わい感が強い。指定該当やむなし。 ・刑務所、看守、銃の使用など、非現実的な設定であり想像だけの世界が描かれている。無理やりの性交は人格否定的にも感じる。買うのは女性だけかと思われ、青少年が買うとは思わないが性交シーン、擬音があまりにも多く不快に感じる。指定該当 ・修正は白抜きされているが、一部性器の形状がはっきり分かる箇所があり、陰毛の描写もあるなど卑わいに感じる。全編に渡り性交シーンも多い。指定やむなし。 ・性器は消してあるが、白抜きで逆に卑わいに思える。強制、手錠、看守、罪人など、すべてで人格否定の要素が強い。指定該当 ・性器、性的行為の描写はいずれも露骨で、リアリティがあり、卑わい感も強い。人格否定の性的行為がベースとなっていることも問題。指定該当 ・ファンタジーの要素も含むが、通常の間人同士の性行為描写と見える。性器は白く修整をしてあるものの、形がわかるシーンが多く、挿入シーンも認識できる。看守を犯すという話では複数でのレイプなど人格否定的な描写もある。絵の構図等が巧みで卑わい感がある。体液は気にならないが、擬音が多い。指定該当 ・白抜きの修整は男性器の形状がわかるものであり不十分。暴力的な性交シーンが多く、人格否定を連想させる。拘束具の使用もある。擬音、体液の描写はシーンによっては多め。陰毛の描写もあり卑わいな感じを与えるといえる。指定該当 ・性器の修整は甘い気がする。性交シーンが多いのは短編をまとめたものであり必然的な部分もあるが多すぎる。条例の主旨とはずれるが、子供の頃に性的虐待を受けて傷ついているのに、犯されているうちに気持ち良くなるという所は誤解を与える。レイプシーンも多く、指定やむなし。 ・男性器の消し方が形のはっきりと分かるものとなっており、露骨すぎる。絵のクオリティが高いため、卑わいさが増している点は、青年のレベルを超えてしまっていると思う。指定やむなし ・性交描写が多すぎるため、露出が多すぎる印象が強い。性器の処理もぼかしが甘いイメージ。強者が弱者を支配する印象を受け、いじめを連想させるため倫理的にも問題あり。指定該当 ・BLというマニアックな内容ではあるものの、体液、擬音の描写が目立ち、性交シーンも多いため卑わい感がある。指定該当 ・性器は白抜きで修整されているが、形がわかる。性交場面が多く、擬音、体液の描写も多い。指定該当 ・性器は白抜き修整が確実に加えられている。ストーリー性に乏しく、性交シーンが多い。陰毛、体液描写が多く、修整を加えながらもギリギリのラインで画のリアリティを出そうと、結合部の描写を多用している印象。一部強制と受け取れる描写はあるものの読者層を考えると著しく性的感情を刺激するとまでは言い切れない。保留 ・看守、動物など特異な状況を選んでいるが、創造的アイデアの範疇にあり社会的に全面的に制限されるべきものとは言えない。性器の消しはやや甘めではあるが配慮はされており、許容しうるものと思われる。指定非該当

条例第18条の2第2項に規定する自主規制団体からの聴き取り結果

(平成30年11月7日実施)

	図 書 名 等	聴 き 取 り 内 容
2	<p>ムークコミックス ピーチシリーズ によたいか天罰！</p> <p>平成30年11月29日発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から性的行為が描写されている。性器そのものは消されているが、描写そのものはうまく描かれており、卑わいな感じを与えている。指定該当 ・男性が女性に変身するという設定がマンガチックではあるが、性行為の描写が多く、また人物設定が学生という点もあり、指摘該当 ・絵はマンガチックで上手である。性器そのものの描写はないが、胸や尻が意図的に大きく描かれており、卑わい感がある。また多人数での性交シーンも多く、器具の使用もあり、人格否定の部分も見られる。指定該当 ・自分勝手な行動で天罰を受けるという設定は、コメディとして見れば許せるかもしれないが、ストーリー性があるとは言えない。表現自体はそれほど過激とも言えず、性器も消してあるが、後半の高校生同士らしき部分もあり、指定該当 ・性器は白くぼかしており、形状も分かりにくい。ストーリー性はわずかにあり、コミカルでもあるが、性行為のシーンが多く、2作目の登場人物が高校生と判断でき、擬音、体液が派手なシーンもある。また、単独、複数によるレイプシーンがあり、人格否定的ともいえることから、指定やむなし。 ・性器、結合部の修整は大きめではあるが、暴力的な性交、複数での強姦は人格否定と言える。一冊を通して性交シーンが多いが、非現実的でコミカルなストーリー展開で陰惨な印象はない。ただ、やはり描かれている行為は強姦であることを考えると指定該当 ・テーマが2本立てで、「によたいか天罰」についてはSF的な感じではあるが、内容がエッチ全開で展開しており、消しは全てに入っているものの、青年では刺激が強すぎると感じる。もう一つの「壁にハマって動けない」もテーマ性はよくわかるが、やはり青年では刺激が強いかと思う。指定やむなし。 ・女体化ものではあるが、結局は男と女の凌辱ものである。結合部分は適度に処理されているが、集団での暴行シーンも見受けられる。公序良俗の面においても問題であり、性的感情を煽る部分もあるため指定やむなし。 ・性器は修整されている。描写のタッチはリアル感はないが性交場面が多く、擬音、体液の描写が多い。リアル感がないため却って青少年が余計に手に取りやすい。指定該当 ・性器部分は修整がなされており、描写もユーモラスであり卑わいな感じはしない。擬音も少ないため卑わいな感じは受けない。指定非該当 ・擬音や体液の描写は少ない。修整は白抜きで適切に処理されている。性交シーンの動画配信や多人数で行為に及ぶ箇所や、ホテルで金銭のやり取りをしている箇所が散見されるが、パロディとして描かれており人格を否定しているとはまでは言えない。指定非該当 ・一部強制的に性交に及ぶシーンが見受けられるが、性器の修整については確実に行われている。体液描写は一部気になる部分があるものの、一般的にリアリティに乏しく、性的感情を刺激するというには相当しない。指定非該当 ・性的行為の描写は驚くほど多いものの、個別の描写をそれぞれ検討した場合、いずれも修整は最低限は施されており、指定の根拠となる露骨さはない。繰り返される一連の性交シーンも、ストーリーなどと照らし合わせれば、全体から受ける印象は条例が問題としている「卑わい感」とは全く異質のものであるように感じる。指定非該当 ・性交シーンが多いが、消しはしっかりしている。形式的で卑わいさはあまり感じない。画角に問題があるとも思えるが、指定非該当 ・強姦された女性が喜びを見出すという人格否定の面が散見されるが、天罰という形でそうした暴力に対する批判的感性も描かれており、作品として全否定できるものではない。性器の消しはしっかりできており、消そうという意識を感じられる。指定非該当 ・性交シーンが多いが、白抜きが大きいこと、画面の色が濃く、裸体が分かりづらいこと、セリフやコマ割りがバトルマンガのパロディとなっていてギャグ要素が高いことから、卑わいさは感じない。冒頭のカラーページは卑わい感はあるものの、全編大部分が該当するとは言えない。指定非該当